

令和８年度 全国学力学習状況調査結果の概要

【調査日】

令和８年４月２３日（木）

【調査内容】

〈教科に関する調査〉 国語、算数・数学、英語（中学校のみ）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

〈学習状況調査〉

児童・生徒質問紙（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

学校質問紙（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

【調査対象】

市内 12 小学校 6 年 1,049 名

（受検者数 国語 975 名 算数 973 名 質問紙 975 名）

市内 8 中学校 3 年 962 名

（受検者数 国語 852 名 数学 855 名 英語 832 名 質問紙 855 名）

【調査結果】 〈教科に関する調査結果の概要〉 [平均正答率（％）]

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語（IRT）
生駒市	65.0	63.0	67.0	64.0	534
奈良県	61.0	56.0	61.0	56.0	496
全国（公立）	60.9	56.4	63.9	57.0	499

※中学校英語はIRTスコアで表示

IRTとは国際的な学力調査（PISA・TIMS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用するテスト理論です。全国平均が 500 を基準に表示されます。

IRT（Item Response Theory：項目反応理論）

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。